



## 2024年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年2月14日

上場会社名 ソースネクスト株式会社  
コード番号 4344 URL <http://www.sourcenext.com>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 COO (氏名) 小嶋 智彰  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 兼 CFO (氏名) 青山 文彦  
四半期報告書提出予定日 2024年2月14日  
配当支払開始予定日  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
TEL 03-6254-5231

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	8,208	5.6	1,870		1,946		1,660	
2023年3月期第3四半期	7,770	0.4	1,416		1,414		1,332	

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 1,821百万円 ( %) 2023年3月期第3四半期 1,275百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	12.25	
2023年3月期第3四半期	9.83	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第3四半期	17,380	8,250	45.4	58.21
2023年3月期	19,639	9,903	46.9	67.92

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 7,890百万円 2023年3月期 9,205百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		0.00	0.00
2024年3月期		0.00			
2024年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,588	12.0	2,392		2,302		1,951		14.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	136,358,300 株	2023年3月期	136,349,600 株
期末自己株式数	2024年3月期3Q	800,024 株	2023年3月期	800,024 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	135,552,518 株	2023年3月期3Q	135,511,703 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、(添付資料)「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の収束へ向けた動きが加速し、個人消費の拡大や海外からの渡航者の増加等、社会・経済活動に持ち直しの傾向が見られました。一方で、ウクライナ及びパレスチナにおける紛争の長期化等、地政学的なリスクの高まりによるエネルギー価格や原材料価格の高騰に加え、為替相場の変動等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く環境は、2023年4月～2023年12月におけるパソコン出荷台数が前年比95.3%で推移しました(2024年1月、JEITA調べ)。またインバウンド・アウトバウンドの回復が進み、2023年4月～2023年12月の訪日外客数は20,275,602人(2019年比14.9%減、前期比443.4%増)となり、出国日本人数は7,949,045人(2019年比47.6%減、前期比208.2%増)となりました(2024年1月、日本政府観光局調べをもとに当社作成)。

このような環境下において、当社は「製品を通じて喜びと感動を世界中の人々に広げる」をミッションに、既存の製品における収益拡大と、お客様のニーズに合った製品の企画・開発による新しいビジネスの創造に取り組んでおります。

製品別の状況につきましては、当社グループのAI通訳機「POCKETALK(ポケトーク)」の国内販売台数は、インバウンド需要の拡大や、今後の更なる回復への期待もあり、オンラインショップチャネルや法人向け販売を中心に前期比で増加しました。海外市場については、特に米国において非ネイティブに向けた多言語対応需要等により、教育機関や医療機関、公共機関、その他企業に導入されており、メディアの露出による認知の拡大も進んでおります。

2023年3月に、「ポケトーク」ブランドの新製品として、ChatGPTの開発元であるOpenAI社の技術を活用し、音声と字幕によりリアルタイム翻訳を可能とするソフトウェア「ポケトーク for BUSINESS」の「同時通訳」を発表いたしました。また、11月に同製品のダウンロード版に加えてウェブブラウザ版を発表し、お客様の利便性が向上したことを契機として、法人のお客様を中心に数多くのお問い合わせをいただき、続々と導入が進んでいます。利益率の高いソフトウェア製品かつサブスクリプション型製品である同製品は安定した収益基盤の形成に資するものであり、今後の成長の柱として注力してまいります。

その他のIoT製品については、文字起こしAIボイスレコーダー「AutoMemo(オートメモ)」で、2020年12月の発売開始以来、アカウント登録数が順調に増加し続け、累計アカウント数(「オートメモ」のサービスを利用する有料・無料会員の合計)は2023年12月末時点で110,000アカウントを突破いたしました。また、これまで販売・提供してきた専用端末やスマートフォンアプリに加え、パソコンに付属するマイクからの録音機能を2024年1月に発表したことにより、サブスクリプション型テキスト化サービスの会員数も順調に増加しております。

360度webカメラシリーズ(「Meeting OWL Pro(ミーティングオウル プロ)」、「KAIGIO CAM360(カイギオカム360)」)の販売は法人のお客様からの需要を獲得し、好調に推移しております。2023年12月に、「ミーティングオウル プロ」の新型機である「Meeting OWL 3(ミーティングオウル 3)」及び同製品の専用拡張マイクの販売を開始しましたが、専用拡張マイクを接続することで、より大きな会議室にも対応可能となったことによりお客様の利便性も更に向上いたしました。

ソフトウェアでは、当社の主力製品である年賀状ソフト3ブランド「筆まめ」「筆王」「宛名職人」で、安定的に利益を確保しているものの、年賀状の市場縮小等の影響により、前期比で売上高が減少いたしました。一方で、同じく当社の主力製品である「いきなりPDF」は、電子帳簿保存法の改正等に伴いペーパーレス化が進んだことによる需要拡大により、法人からの受注が増加し、前期比で売上高が増加しております。また、読める留守番電話「スマート留守電」のサブスクリプション型サービスの売上高も前期比で増加し、好調に推移しました。しかしながら年賀状ソフトの低調等が影響し、ソフトウェア全体の売上高は前期比で減少いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は82億8百万円(前期比5.6%増)、売上総利益44億73百万円(前期比12.0%増)となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、今後の「ポケトーク」事業拡大のための人件費や広告宣伝費の増加、当社直販サイトを新システムへ移行することに伴う業務委託費の一時的な増加等がありました。結果、販売費及び一般管理費は63億43百万円(前期比17.2%増)となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の営業損失は18億70百万円(前期営業損失14億16百万円)となりました。

円安の進行に伴う為替差益を1億27百万円計上した一方で、持分法による投資損失を1億50百万円計上したこと等により、当第3四半期連結累計期間の経常損失は19億46百万円(前期経常損失14億14百万円)となりました。非支配株主に帰属する四半期純損失が2億93百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は16億60百万円(前期親会社株主に帰属する四半期純損失13億32百万円)となりました。

当社グループはIoT製品、ソフトウェアの企画・開発・販売及びその他のサービス事業の単一セグメントです。各販売チャネルの営業概況は以下の通りです。

ア) オンラインショップ

当チャネルでは、当社直販サイト及びAmazon等の国内ウェブサイトにおけるオンラインショップにおいて、「ポケットーク」や「オートメモ」をはじめとするIoT製品、年賀状ソフトやセキュリティソフト等のソフトウェア製品を販売しております。

当第3四半期連結累計期間にはAmazon等の国内ウェブサイトでの販売が好調に推移し、インバウンドの復活による「ポケットーク」の需要回復や、販売製品数の拡充等により、売上高が前期よりも増加しました。一方で、当社直販サイトではパソコン出荷台数の減少やサイト訪問者数減少等の影響があり、売上高が前期比で減少しました。

この結果、当チャネルの売上高は38億91百万円（前期比7.3%減）となりました。

イ) 家電量販店

当チャネルでは、主に全国の家電量販店において、個人ユーザー向けのIoT製品及びパソコンソフト等を販売しております。

当第3四半期連結累計期間はハードウェア製品を中心に販売が好調に推移しました。インバウンド・アウトバウンドの復活により「ポケットーク」の需要が回復したことや360度webカメラシリーズの販売が好調に推移したことにより、売上高は前期比で増加しました。

この結果、当チャネルの売上高は12億80百万円（前期比10.3%増）となりました。

ウ) 法人営業

当チャネルでは、「ポケットーク」を始めとするIoT製品並びにweb会議関連のハードウェアの法人向け販売・レンタル提供や、セキュリティ製品・PDF編集ソフト等のパソコンソフトの販売をしております。「スマート留守電」を中心とするスマートフォンアプリケーションのサブスクリプション型サービス提供にも注力しております。

当第3四半期連結累計期間は、360度webカメラシリーズ等のハードウェア製品やスマート留守電等のサブスクリプション型サービスが好調に推移し、法人向け大型案件の獲得も進んだことにより、売上高は前期比で増加しました。

この結果、当チャネルの売上高は21億91百万円(前期比29.1%増)となりました。

エ) その他

海外では米国や欧州のAmazonにおける販売及び法人への直接販売を中心に「ポケットーク」を販売しております。

当第3四半期連結累計期間において、海外での「ポケットーク」販売は法人向け販売を中心に、好調に推移いたしました。米国にて法人による大型のリピート購入が進んでおり、売上高は前期比で増加しました。

この結果、「その他」の売上高は8億44百万円（前期比18.7%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末と比較し22億58百万円減少し、173億80百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少24億26百万円、商品及び製品の減少5億74百万円、無形固定資産の増加4億85百万円によるものです。

負債は、前連結会計年度末と比較し6億6百万円減少し、91億29百万円となりました。主な要因は、返済に伴う長期借入金の減少3億90百万円、その他流動負債の減少3億7百万円によるものです。

経営の安定性を示す自己資本比率は、当第3四半期連結会計期間末において45.4%（前連結会計年度末46.9%）と、財務の安全性が保持されております。

また、当社の連結子会社であるポケットーク株式会社は2023年12月に1億30百万円の資金調達を行いました（Pre-Valuation 237億9百万円）。これにより、同社の累計資金調達金額は38億39百万円となりました。（Post-Valuation 238億39百万円、ソースネクストの持株比率 83.9%=200億円）。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の通期連結業績予想につきましては、2023年11月14日に公表いたしました通期の連結業績見込予想を修正しております。詳細につきましては、本日公表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,484,572	4,057,697
売掛金	1,264,988	1,686,611
商品及び製品	3,345,704	2,771,558
原材料及び貯蔵品	65,426	81,818
前渡金	860,637	762,461
その他	485,574	456,779
流動資産合計	12,506,905	9,816,926
固定資産		
有形固定資産		
有形固定資産	394,441	476,270
減価償却累計額	△316,987	△327,170
有形固定資産合計	77,453	149,099
無形固定資産		
ソフトウェア	1,183,049	2,357,539
契約関連無形資産	1,078,590	1,020,462
その他	813,793	182,875
無形固定資産合計	3,075,433	3,560,877
投資その他の資産		
投資有価証券	3,372,612	3,308,914
繰延税金資産	506,055	454,116
その他	100,878	90,551
投資その他の資産合計	3,979,545	3,853,581
固定資産合計	7,132,432	7,563,559
資産合計	19,639,337	17,380,485
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	259,289	238,214
短期借入金	4,600,000	4,600,000
1年内返済予定の長期借入金	520,080	520,080
未払金	913,133	883,582
未払法人税等	36,712	32,324
前受収益	439,529	486,172
賞与引当金	26,115	100,168
その他	609,696	302,660
流動負債合計	7,404,557	7,163,203
固定負債		
長期借入金	2,129,820	1,739,760
長期前受収益	201,928	171,403
その他	-	55,447
固定負債合計	2,331,748	1,966,610
負債合計	9,736,305	9,129,813

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,701,935	3,703,401
資本剰余金	7,332,327	7,545,969
利益剰余金	△1,889,953	△3,550,088
自己株式	△163,122	△163,122
株主資本合計	8,981,187	7,536,161
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	125,156	133,664
為替換算調整勘定	99,631	220,995
その他の包括利益累計額合計	224,788	354,659
新株予約権	258,724	294,936
非支配株主持分	438,332	64,915
純資産合計	9,903,032	8,250,672
負債純資産合計	19,639,337	17,380,485

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	7,770,007	8,208,685
売上原価	3,774,284	3,735,126
売上総利益	3,995,722	4,473,558
販売費及び一般管理費	5,412,237	6,343,773
営業損失(△)	△1,416,514	△1,870,214
営業外収益		
受取利息	5,065	1,117
受取配当金	2,088	2,271
為替差益	161,219	127,649
その他	2,812	10,199
営業外収益合計	171,185	141,237
営業外費用		
支払利息	35,899	51,578
持分法による投資損失	125,346	150,749
株式交付費	8,364	455
その他	-	15,102
営業外費用合計	169,611	217,885
経常損失(△)	△1,414,940	△1,946,863
特別利益		
投資有価証券売却益	-	21,384
新株予約権戻入益	5,552	25,217
特別利益合計	5,552	46,601
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,409,388	△1,900,261
法人税、住民税及び事業税	8,941	5,271
法人税等調整額	2,253	48,184
法人税等合計	11,195	53,455
四半期純損失(△)	△1,420,583	△1,953,717
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△88,299	△293,582
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,332,283	△1,660,134



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純損失(△)	△1,420,583	△1,953,717
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	117,554	8,507
為替換算調整勘定	27,976	123,704
その他の包括利益合計	145,531	132,212
四半期包括利益	△1,275,052	△1,821,505
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,188,781	△1,530,263
非支配株主に係る四半期包括利益	△86,270	△291,241

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。